

各関係機関、団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報について（送付）

病害虫発生予察注意報（第2号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

令和5年度 病害虫発生予察注意報（第2号）

令和6年3月29日

愛媛県

病害虫名 ベと病

作物 たまねぎ

1 発生地域 県下全域

2 発生程度 やや多～多

3 注意報発表の根拠

- (1) 3月上中旬の広域調査では、県全体の発生圃場率33.8%、発病株率3.68%であり、過去7か年と比較すると発生圃場率及び発病株率ともに高い。特に東予地域は、発生圃場率63.8%、発病株率8.43%であり、他の地域に比べて高い（表）。
- (2) 3月21日発表（高松地方气象台）の1か月予報では、気温は高く、降水量も多い見込みとされており、発生拡大が懸念される。

4 防除上の注意

- (1) 越年罹病株（一次伝染株）は、淡黄緑色となり、やや萎縮し葉身が湾曲する（写真1）。湿潤な気象条件下（気温15℃前後、降雨が続く場合）では、罹病株上に多量の分生胞子が形成され（写真2）、周辺に飛散し二次伝染を起こす（写真3）。分生胞子は広範囲に飛散するため、地域一体となって防除すると効果が高まる。
- (2) 圃場観察を丁寧に行い、二次伝染源となる越年罹病株の早期発見に努める。被害葉身内に形成される卵胞子は土壌中で長期間にわたり残存し、翌年以降の一次伝染源となるため、抜き取った罹病株は、圃場外に持ち出し適切に処分する。
- (3) 排水不良の圃場で発生が多いため、降雨後の排水に努める。
- (4) 発病後の薬剤散布は防除効果が劣るので予防に重点を置き、計画的に防除を実施する。なお、たまねぎの葉身は薬液の付着性が悪いため、展着剤を必ず加用する。
- (5) 防除は降雨等の天候を考慮しながら7～10日間隔で行う。また、同一系統の薬剤の連用を避ける。
- (6) 農薬の散布にあたっては農薬使用基準を順守し、周辺農作物への飛散防止対策を徹底する。

表 広域調査におけるべと病の発生調査結果(普通期.3月調査)

地域	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率(%)		発病株率(%)	
			本年	平年	本年	平年
東予	58	37	63.8	15.0	8.43	0.55
中予	61	11	18.0	8.2	0.55	0.20
南予	23	0	0.0	11.1	0.00	2.26
県全体	142	48	33.8	11.5	3.68	0.69

- 1) 調査対象は越年罹病株および二次伝染株  
2) 平年: 過去7年間の平均



写真1 越年罹病株 (一次伝染株)



写真2 分生胞子が形成された罹病株



写真3 二次伝染による多発圃場